

平成24年度 第2回学校評議員会の実施報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校長 原 武志

学校住所 美濃加茂市牧野2007-1

電話 0574-28-3150

- 1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校学校評議員会
- 2 会議の構成 委員 板津 幹彦 東和組立株式会社 代表取締役
小川 たか子 中山道発展理事・美濃加茂市商工会女性会理
事 (欠席)
井上 さよ子 可児市発達支援センターくれよん所長
渡辺 厚 下米田地区自治会 (欠席)
渡辺 俊幸 美濃加茂市文化団体連盟 会長

学 校 吉田 和歌子 P T A会長
原 武志 校長
福井 学 事務長 (欠席)
山下 雅樹 教頭
武市 忠史 小学部主事
吉田 敏雄 中学部主事
本田 裕 高等部主事
平野 俊之 教務主任

- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。
- 4 会議の開催 平成25年2月19日(火) 8:50~10:40
可茂特別支援学校集会室
出席者： 委員3名 学校側6名
- 5 会議の概要 (1) 学校長挨拶
(2) 朝読書参観・授業参観
(3) アンケート (保護者及び学校評議員対象) 集計結果
(4) 各分掌の取り組み
(5) 各学部の活動意見交換
(6) 意見交換

- 6 会議録
学校評議員よりのご意見

意見 (朝読書について)

- ・ 図書館の整備は、小学部~高等部まで系統立てて一貫した本をそろえるのは、かなり大変ではないか。

- ・子どもにあった本を選んで読んで聞かせることは良いことである。
- ・美濃加茂市は朗読の町として全国的に有名である。既に太田小学校が文部大臣賞を受賞していたこともあり、もともと朗読についての基盤があった。朗読は、先生方が読むことで（読み方の中でもドラマチックリーディング）子どもが涙を流すのを見ると、朗読は素晴らしいと思う。ぜひ先生方も学べると良い。
- ・しゃべっている子もいなく集中している姿がとても印象的であった。
- ・朝読書の時間までに児童生徒が学校まで到着することも大きな課題である。

学 校

- ・朝読書は子どもたちだけではなく、先生たちも取り組む姿勢を子どもたちに見せることによって、先生たち自身の一人一人の姿勢も積み上げていくことに繋がっていくのではないかと考えている。

意見（進路指導について）

- ・今年は自動車業界も厳しく、協力企業への就職は難しかったが、実習（研修）はそのような状況でも大丈夫である。また特別支援学校の多くが同じ時期に重なるが、実習（研修）としてであれば受けることはできる。
- ・今後、もう少し企業向けの、広報活動、例えばダイレクトメールなどを通じ美濃可茂市内の企業にアピールをすると良いのではないかと。
- ・会社に就労した後何年くらいまで相談を学校は受けているのか。例えば、会社としては不安定な就労状況であっても、学校の先生に会ってもらうと就労状況が好転する場合もあり、人によっては何回も実際に就労先へ先生に来ていただいている。

学 校

- ・就労後のフォローの目安は地域の成人式、学校での同窓会、成人の会まではしっかり支援したい。それからは、次第に担当がいなくなってしまう現実もある。
- ・福祉就労なり福祉の力を借りている卒業生は在学しているうちから福祉、年金等関係する福祉部局、教育委員会と会議をもっており、福祉担当者から情報を得ることができる。問題は一般就労の生徒についてであるが、会社にお世話になった後、やめて何処かへ行ったなり、よその県へ行ったなりした場合、どうなっているか全く分からないという状況であり、そうなると学校としてのシステムとしては全く機能しなくなる場合もありますが、しっかり進路指導部担当の業務のなかに位置づけて、何か本人、保護者、事業所さんが困ったとき、すぐに連絡をいただくことが考えられ、それは学校独自で作らないといけない。少なくとも同窓会は必ず行くことが必要である。

意見（防災教育について）

- ・防災については企業の方が勉強させていただきたい。
- ・防災については災害だけではなく保護者からの危機管理について指摘を受けた部分を改善しないといけない、例えば、防犯、不審者、感染症等、様々な危機管理を想定しながら、いのちを守る対象として押さえていくべきである。

学 校

- ・災害に対する対応もまだ十分ではありません。子どもたちの地域はすごく広範囲であり、どのように安否確認したらよいか、校外学習などで何処かへ行っていた時どうするのか、送迎の途中で起きたらどうするのか等々、考えるときりがない。しかし、そうかといってやらないわけにはいかないなので、できるところからやるしかなく少しずつでも解決していく。

意見（いじめ・体罰等について）

- ・いじめは、受ける方もいじめをする側もどちらも嫌な思いをする。家庭と学校をつなぐものとして連絡帳をととても大切に思っている。先生が（子どもの様子で）見られたことをことばでどう受け止めているということで気をつけて書いてもらっている。先生が書かれたことで学校の様子を知ることができ、今こんなことをがんばっていると書いていただくことで親としてはすごく伝わっている。それに対してどんなことでも返事を書くことに気をつけることでお互いにコミュニケーションが始まっている。昼間は全てお任せするわけですから、関わりは連絡帳から始まっている。
- ・問題が起きたとき、逃げないことが大切であり、私も対応する側だったが自分として1番やりにくい1番嫌なことをするしか手がなかったことが心に残っている。自分にとって1番難しい方法をとって対峙していくことが1番解決に繋がった。
- ・これだけ児童生徒が大変だから、教師の人間性を大切にしたい組織を作っておかないと適応できない。

学 校

- ・教員としてというよりも人としての人権研修のようなものを詰め込んでも、人はなかなか変わらない。12月から各分掌の副部長（ミドルリーダー的な教員）を中心に知恵を絞り、全職員にいろいろなことを発信することを積み上げている。どうしたら、いろいろな諸問題を解決するのか、学校が活性化するのか、職員がいろいろ話し合いができるのか積み上げており、あの手この手で考えているところである。

7 会議のまとめ

朝読書については、多くの賛同と示唆を得ることができた。やはり就労後、卒業後の生徒の様子にまで話が及び、地域という組織の一つに本校が役立つ必要性が指摘された。今後の本校の教育活動に対して貴重な意見を伺うことができた。